

第 22 回アジア太平洋オプトメトリー大会 (APOC)

国際部 林 光久

第 22 回アジア太平洋オプトメトリー大会 (APOC) は 2019 年 6 月 17 日から 20 日まで 4 日間にわたりアジア太平洋オプトメトリー会議 (APCO) とフィリピンオプトメトリー協会 (OAP) との共催で、フィリピンの首都マニラ、SMX コンベンションセンターで開催されました。

APOC はオプトメトリストによる地域社会への「ビジョンケアサービス」の向上を目指して、2 年に一度開催されているもので、今回のテーマは Optometry Refocused (オプトメトリー再フォーカス) でした。ここマニラは、1978 年に APCO の設立総会が開催された地です。大会には 29 カ国から約 500 名が参加しました。日本からは金井氏と私の 2 名でした。参加国は、日本、オーストラリア、バーレーン、バングラデシュ、ブルネイ、カンボジア、カナダ、中国、フィジー、香港、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、ミャンマー、ネパール、ニュージーランド、カタール、ロシア、シンガポール、南アフリカ、スリランカ、台湾、タイ、イギリス、米国、ベトナムでした。

大会は APCO 会長のピーター・ヘンディコット氏、フィリピン・オプトメトリー協会会長のレザ・バドン・タバサアレス氏、WCO 会長のスコット・マンドル氏、さらにフィリピン保健省 (Department of Health) のローランド・ドミンゴ氏の挨拶に続き、リボンカットセレモニーで始まりました。

学術プログラムは、K.B.Woo 記念講演として、香港のカーリー・ラム氏による近視進行抑制についての講演で始まりました。新しい近視コントロール用のレンズ (DIMS) (HOYA 製) を用いた臨床治験についての講演で、高い関心を呼んでいました。日本では発売されていませんが、レンズの表面に無数の 1 ミリ程度の小さいプラスレンズが配置されているものです。今回の APOC での学術プログラムには、近視抑制に関する話題が多かった印象があります。もうひとつの特徴は、IACLE (国際コンタクトレンズ教育者協会) が結構大きく絡んでいるようで、コンタクトレンズに関する話題もかなり多く講演され



APOC 新役員 (右から 3 人目が林氏)



金井当協会副会長と林氏

ました。もちろん、眼疾患などに関連する内容の講演も多数ありました。

フィリピンでは 10 時と 3 時にミリエンダと呼ばれるおやつの習慣があり、この大会中も会場内で提供されていました。

APCO の GDM (総会) は初日の夕方に開催されました。シンガポールから事前に多数の質問がインターネットで送られていたので、荒れる総会が予想されましたが、ピーター・ヘンディコット会長が上手く裁き、予想された混乱はありませんでした。また、APCO の事務局が 7 月 1 日をもって香港からオーストラリアのメルボルンに移転されることが正式に発表されました。任期満了に伴い改選された新役員は、オーストラリア、カンボジア、香港、インド、マレーシア、フィリピンの各代表で、日本からの私を含めて 7 人でした。

役員会議は 2 日目の昼に開かれました。これは特に会長、副会長と会計係を決めるためのもので、自薦・他薦とあり、若干難航しましたが、会長にピーター・ヘンディコット氏が再選され、副会長にカーリー・ラム氏、会計係にカルメン・アベサミス・ディチョソ氏がそれぞれ選ばれました。次回の APOC は、WCO (世界オプトメトリー会議) による WCO (世界オプトメトリー大会) の会期と競合しないように調整しようという意見があるため、現状、開催時期も開催国も未定です。なお、今大会のスポンサー企業は、エシロール、アルコン、ジョンソン & ジョンソン、トプコン、参天の各社でした。